

令和 5 年度第 1 回岡崎市放課後児童クラブ支援員研修会レポート

【日時】 2023 年 (6) 月 (7) 日 (水) 9 時 30 分～11 時 30 分

【会場】 岡崎市役所福祉会館 6 階大ホール

【内容】 「配慮が必要な児童への育成支援について」

【講師】 1 日目：木全和巳さん（日本福祉大学）、2 日目：佐々木将芳さん（静岡県立大学）

【クラブ】（ たけのこクラブ ）

【名 前】（ 米本美紀 ）

本日の研修で心にのこったことや気づいたことや学んだこと、今後の実践に活かしていきたいことなど、感想もふくめてお書きください（自由記述）。

今日の研修のテーマが「しょうがいのある子どもをふくむ生活づくり」でした。

木全先生の講義を聞き、事例検討の発表からのグループワークになりました。

ある育成センターの事例で、ASD・ADHD のしょうがいをもつ 2 年生男児の事例で、衝動的な問題行動が多いということで、いくつかの事例があげられました。

その中で「なぜ、そのような行動になるのか？」を、本人の視点や見立てを考え、グループワークで話し合いをしました。

- ・声かけ一つもプラスになる声掛けをしてみたらどうだろう。
- ・癇癢を起した際には、少し環境を変え静かな空間で過ごしてみたらどうだろう。
- ・療育を辞めてしまい、自分の落ち着く居場所がなくなってしまった反動なのか。
- ・単純に体力が有り余ってしまっているのではないだろうか。もう少し子家の時間を延ばす。などの意見交換をしました。

発表では、育成センターはワンルームなので「空間づくりはできない」との返答がきました。

自身のクラブもワンルームではあるが、ワンルームを言い訳に「できない」「やれない」と言い訳にしたことがないので、育成センターとの保育観の温度差を正直感じてしまいました。

ワンルームは施設の問題で、本人の視点や見立てではないのでは？と思いました。

なぜ、暴れるのか？どうしてほしいと子どもが考え思っているのだらうと、支援員は考えていかなければ、子どもに寄り添うことはできないと思いました。

療育や支援級で過ごす時間は、少ない人数の中で過ごすので居心地のいい場でもあると思います。でも学童は集団生活でしょうがいをもつ子、もたない子が一緒に生活をするので、窮屈に感じてストレスが溜まり問題行動としてでてしまうのかなと思いました。

どうしたら、全員が居心地よく過ごせるか今一度考えさせられた 2 時間でした。

※提出されたレポートは、当会のホームページや広報誌に掲載する場合がありますので、あらかじめご了承ください。

※×切は、研修終了後、2 週間以内です。常勤・専任指導員に手渡し、または、okazakigakudou@yahoo.co.jp までお送りください。